

平成29年度 とまり樹はうす 事業実績報告書

1 総括

短期入所事業は、緊急時の対応や将来の生活に向けた準備のために活用されており、地域のニーズが非常に高い事業である。当法人でも、利用者からの要望が高く、その要望に応えるかたちで数年の計画を経て、平成28年度にようやく事業開設に至った。

開設初年度は、平日の利用率は90%近かったものの、職員数の不足から土日や休日は、利用者の受け入れが殆どできず、利用率は5%程度であった。29年度は土日休日の支援体制整備を目標に職員確保を図り、利用率を50%程度まで上げることが出来た。また、平日の利用率も前年度に比べて上がり、96%まで達した。前年度に比べ利用率が上がったことで、給付費収入も増額し、開設2年が経過し徐々に事業経営が安定しつつある。また、昨年度と比較しての今年度の特徴として、緊急時の受け入れが多かったことが挙げられる。全利用理由の63%にのぼり、これは昨年度の20%から大幅に向上している。セーフティネットとしての役割が果たせたことは大きな意義があり、今後も緊急事態の予防のための体験的利用とのバランスを計りながら、事業を実施していきたい。

本事業は、多くの利用者が利用することから、一人ひとりの情報を正確に把握し、確実に職員に伝達することが安心して利用するための極めて重要な事項である。28年度は大きな問題には発展しなかったが、誤薬の発生などがあり、この点が大きな反省点であった。29年度は職員間の情報共有、支援の統一をテーマに取り組み、重大な事故がなく、支援の質においても向上が図られたと感じている。定期的に利用する利用者も多く、職員との関係性が構築され、利用者の安心度も上がってきたことも事業が安定しつつあることの一因と考える。

このように事業は安定しつつあるが、365日の支援体制整備や更なる支援の質の向上については、まだ課題も多い。職員数の増加やそれに伴うより一層の情報共有の徹底、支援スキルの向上など、次年度以降、継続して取り組む必要がある。

2 事業概要

- 1) 施設名 とまり樹はうす
- 2) 事業種別 短期入所事業（併設型）
- 3) 所在地 東京都小平市花小金井南町1-26-28
- 4) 運営主体 社会福祉法人未来
- 5) 利用定員 2名
- 6) 法人認可年月日 平成14年12月13日
- 7) 事業開始年月日 平成15年1月1日
- 8) 職員（平成30年3月31日現在）
管理者 1名
生活支援員 名（常勤換算 . ）

- 3 基本理念 一人ひとりの自己実現の支援
互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築
安心と希望のもてる生活

4 事業目的

- 1) 一時的な生活支援
家族または介護者が何らかの理由（冠婚葬祭、病気、事故、休養、その他の理由）により、一時的に自宅で支援することが困難な場合に、日常生活に必要な支援を行う。
- 2) 生活体験としての支援
生活体験の幅を広げ、より豊かな生活を支援する。

5 実施事業（活動内容）

- 1) 居室の提供
- 2) 食事の提供
- 3) 洗濯、掃除等の生活支援
- 4) 健康管理
- 5) 日中活動先（福祉サービス及び職場等）、関係機関との連絡、調整
- 6) 入浴等生活行為の支援
- 7) その他日常生活に必要な支援

6 日 課

5時00分～	7時30分	起床
7時30分～	9時30分	通所事業所、会社へ出勤
16時00分～	17時00分	利用開始
16時00分～	20時00分	入浴
18時00分～	19時00分	夕食
20時00分～	22時00分	就寝

7 重点課題・目標に対する評価

1) 利用者が安心して利用できる環境づくり

- ・利用者の状況を把握する

【成果と課題】

本事業は支援体制の崩壊や一時的な欠損に対応する緊急時の利用と将来の自立に向けた体験の為に利用に大別される。緊急時の利用を優先して受入れをしているが、将来的な緊急事態発生の予防として体験利用も重要な意味をもっている。体験利用については定期的に継続する必要があることから、登録者を63名に限定し、2か月に1回は利用が可能となるようにしている。このように体験利用を継続することで、利用者の状況や支援上の留意点、嗜好などの情報が徐々に各職員の中に蓄積され、これを記録、申し送りや会議等で共有することで、利用者の状況把握は大きく進んだ。また、利用前に本人、家族から状況や要望の聴取を行い、利用後に利用時の様子を報告したうえ、意見や感想を聴取したことも、円滑な支援や本人の状況把握に有効であった。

29年度、利用後の意見の中で、家族より荷物の整理が不十分という指摘があった。全職員へ周知徹底の上、改善を図っているところである。

- ・職員間の引継ぎ、情報共有の精度を向上し、一貫性のある支援を行う。

【成果と課題】

職員間の情報共有は、支援記録を活用のうえ、コーディネートの担当職員が全職員への申し送りを行う方法で実施した。これにより、情報の食い違いが防止でき、概ね正確な情報伝達が行えた。また、担当職員と施設長による週1回のケース検討を計画していたが、日時を決めて開催するより、必要に応じて随時行う方が、臨機応変に対応できることから、年度途中でその方法を変更した。

今後の課題は一人ひとりの利用者の生活全般の状況及び長期的なニーズや課題の把握とそれを含めた支援計画の策定である。自立の為に体験の場合、事業所で安全に過ごすのみでなく、将来の自立につながる為の支援の充実が必要となる。この点を踏まえ、一人ひとりの段階に応じて、次年度以降取り組みたい。

2) 土日祝休日の支援体制整備

前述のように、土日祝休日の支援体制は、前年度より改善したがまだ不十分である。現在8名の職員が勤務に従事しているが、あと2名程度の職員の確保が必要となる。

(実績数は下、「9 実施状況」「10 利用状況」参照)

8 その他の成果と課題

1) 誤薬防止について

昨年度、3件の誤薬が発生し、改善策として、服薬管理者の設置、管理表を活用した複数職員による確認体制、保管場所の施錠を実施し、今年度は事故を防止することができた。

2) 待機者について

体験利用の頻度を保障するため、現在、登録制により利用者数を63名に限定している。新規の利用希望者に対しては、待機者リストを作成し、3月末で3名の方が登録されている。前述の通り、緊急時支援の利用者の増加に加え、体験利用者の定期的な利用も重なり、今年度は待機者を解消することができなかった。次年度以降、待機者の利用について検討することを課題としたい。

9 実施状況

- 1) サービス実施日数〈期間 自：平成29年4月1日 至：平成30年3月31日〉
365日間 (内、土・日・祝日開設 123日間)

10 利用状況

- 1) 利用実績ー 実人数43人、延人数587人 (昨年度 実人数47人、延人数440人)

〈実績内訳〉

	実人数	延人数	(昨年度：実人数	延人数)
・緊急的な利用	18人	373人	(15人	87人)
・体験的な利用	25人	214人	(32人	353人)
・平日の実績	43人	464人	(43人	430人)
・土日休日の実績	3人	123人	(6人	10人)
	※実人数3人は重複			※実人数6人は重複

- 2) 利用率ー 81% (昨年度61%)

- ・平日の利用率 96% (昨年度 88%)
- ・土日休日の利用率 51% (昨年度 5%)

11 利用者状況 (平成30年3月31日現在)

1) 年齢

【利用者実人数】

- ・18歳以上20歳未満 1名
- ・20歳以上30歳未満 20名
- ・30歳以上40歳未満 17名
- ・40歳以上50歳未満 4名
- ・50歳以上 1名

【利用者延べ人数】

- ・18歳以上20歳未満 1名
- ・20歳以上30歳未満 202名
- ・30歳以上40歳未満 343名
- ・40歳以上50歳未満 37名
- ・50歳以上 4名

2) 障害の状況

(1) 障害支援区分

【利用者実人数】

- ・区分1 0名
- ・区分2 1名
- ・区分3 5名
- ・区分4 13名
- ・区分5 16名
- ・区分6 8名

【利用者延べ人数】

- ・区分1 0名
- ・区分2 10名
- ・区分3 30名
- ・区分4 105名
- ・区分5 360名
- ・区分6 82名

3) 居住状況

【利用者実人数】	管内居住	35名	管外居住	8名
【利用者延べ人数】	管内居住	551名	管外居住	36名

4) 性別

【利用者実人数】	男性	31名、	女性	12名
【利用者延べ人数】	男性	489名、	女性	98名

1.2 環境の整備

事業所内外の美化と利用者周辺の整理整頓につとめ、転倒などの事故防止に努めた。

1.3 防災

年1回3月にグループホーム花の樹と共同で避難訓練を実施した。